



**問**

土埃に対する深刻な悩みの解消策を求め、カバークロップ栽培奨励補助事業を推進する

日本共産党 大名美恵子 議員

**議員** 村は土地利用に関する新たな取り組みを準備中とのことだが、深刻な土埃に対する悩みに関してはどう考えているのか。

**経済環境部長** 環境に配慮した農業、畑地の地力回復と土埃対策を目的に冬場における麦の作付けを奨励し、「カバークロップ栽培奨励補助事業」を実施している。土埃対策は

住環境のみならず干し芋の品質向上にも係る問題であり、引き続き取り組み農家や取り組み面積の拡大に取り組む。一方、土作りのため作物を作付けできない時期があることも理解していただきたい。

**議員** 総耕作面積のうち土埃対策を行っている面積の割合はどのくらいか。これを把握し丁寧な対策をとるべきである。



土埃

**経済環境部長** 畑地として耕作している総面積620haのうち3割がカバークロップ栽培を行っている。まだ協力していただける可能性が残っているので奨励をしてま

いりたい。

**問** 米の直接支払交付金は村が補填すべき

**答** 振替・拡充政策があるので補填しない

**議員** 約50年ぶりの国の米政策大改革により国の直接支払い交付金が、まず半額廃止、5年後には完全廃止となる。これを村は補填すべきである。また村独自の関係する補助金の今後の対応はどう考えているか。

**経済環境部長** 国は交付金を廃止し、代わりとして多面的機能支払いの創設、主体的な有効活用対策の充実、農地集積の拡充等を行うとしているため村の補填は行わない考えである。

村の転作奨励補助事業等については、国の施策変更が村内農家の水田農業経営に与える影響や心理的不安を和らげるため、平成26年度も継続し国の動向を見ながら、今後の営農活動を支援していく考えである。

**議員** 国の新たな政策に農家が納得いかなければ、村として抜本的な農

業振興計画が必要になるのではない

**議員** 業振興計画が必要になるのではないか。



まもなく田植え